

避難に関する知識を身につけよう

災害が発生し、家屋内にとどまることが危険な状態になった場合は、落ち着いてすばやく避難する必要があります。その際には、子どもや高齢者などの災害時要援護者の保護を念頭に置き、近所の一人暮らし高齢者世帯などにも声をかけるなど近隣で協力することが大切です。

避難に対する基本的な考え方

避難は自ら判断を

災害が迫ったとき、置かれた状況は一人ひとり違います。それぞれが自ら判断し、適切な行動を取らなければなりません。



命を守る避難行動を

危険な状況のなかでの避難はできるだけ避け、安全の確保を第一に考えます。危険が切迫している場合は、指定された避難場所への移動 **① 水平避難** だけでなく、近隣のより安全な場所、より安全な建物等へ避難するなど、命を守る避難行動をとることが重要です。



- ① 水平避難**
- 夜間や急激な降雨で避難路上の危険箇所がわかりにくい
 - ひざ上まで浸水している (50cm以上)
 - 浸水は20cm程度だが、水の流れる速度が速い
 - 浸水は10cm程度だが、用水路などの位置が不明で転落のおそれがある

- ② 垂直避難** 屋外への移動は危険です。浸水による建物倒壊の危険がないと判断される場合には、自宅や近隣建物の2階以上 (津波の場合は3階以上) へ緊急的に一時避難し、救助を待つことも検討してください

警戒レベルを用いた避難勧告等の伝達

※警戒レベルは、洪水、土砂災害、高潮、内水氾濫に用いる (津波はレベル区分になじまないため対象外)。

| 警戒レベル | 居住者等がとるべき行動 | 避難情報など |
|----------------------------|--|---|
| 警戒レベル5 (市区町村が発令) | すでに災害が発生しているため、命を守るための最善の行動をとる。 | 災害発生情報 ※ ※災害が実際に発生していることを把握した場合に、可能な範囲で発令 |
| 警戒レベル4 (市区町村が発令) | ● 指定緊急避難場所等への立退き避難を基本とする避難行動をとる。 ● 災害が発生するおそれが極めて高い状況等で、指定緊急避難場所への立退き避難はかえって命に危険を及ぼしかねないと自ら判断する場合には、近隣の安全な場所への避難や建物内のより安全な部屋への移動等の緊急の避難をする。 | 避難勧告、避難指示 (緊急) ※ ※地域の状況に応じて緊急的又は重ねて避難を促す場合に発令 |
| 警戒レベル3 (市区町村が発令) | 避難に時間のかかる高齢者等の要配慮者は立退き避難する。その他の人は立退き避難の準備をし、自発的に避難する。 | 避難準備・高齢者等避難開始 |
| 警戒レベル2 (気象庁が発表) | ハザードマップ等により災害リスク、避難場所や避難経路、避難のタイミング等の再確認、避難情報の把握手段の再確認・注意など、避難に備え自らの避難行動を確認する。 | 注意報 (大雨、洪水など) |
| 警戒レベル1 (気象庁が発表) | 防災気象情報等の最新情報に注意するなど、災害への心構えを高める。 | 早期注意情報 (警報級の可能性) |

安全に避難するために

避難勧告が出されたら、すみやかに避難しましょう。「まだ、大丈夫」と自己判断せず、早め早めに対応することが命を守るポイントです。

① 事前に準備を

ふだんから避難場所までの安全な経路などを確認しておきましょう。



② 持ち物は最小限に

荷物は背負い、両手が使えようようにしましょう。



③ 動きやすく安全な服装で

ヘルメットや防災ずきんで頭を保護し、靴ひもで締められる運動靴を。裸足・長靴は厳禁です。

ヘルメットや防災ずきんをかぶる (なければ帽子)

ヘルメットや防災ずきんをかぶる (なければ帽子)

ヘルメットや防災ずきんをかぶる (なければ帽子)

ヘルメットや防災ずきんをかぶる (なければ帽子)

ヘルメットや防災ずきんをかぶる (なければ帽子)

ヘルメットや防災ずきんをかぶる (なければ帽子)

ヘルメットや防災ずきんをかぶる (なければ帽子)

ヘルメットや防災ずきんをかぶる (なければ帽子)

ヘルメットや防災ずきんをかぶる (なければ帽子)

ヘルメットや防災ずきんをかぶる (なければ帽子)

ヘルメットや防災ずきんをかぶる (なければ帽子)

ヘルメットや防災ずきんをかぶる (なければ帽子)

ヘルメットや防災ずきんをかぶる (なければ帽子)

ヘルメットや防災ずきんをかぶる (なければ帽子)

ヘルメットや防災ずきんをかぶる (なければ帽子)

ヘルメットや防災ずきんをかぶる (なければ帽子)

④ 車は使わない

車は数10cmの浸水で浮いてしまいます。他の避難者や緊急車両のさまたげにもなり、危険です。



⑤ 隣近所で声を掛け合って

避難は2人以上で。隣近所を誘ってロープで結び、集団で避難しましょう。高齢者や病人などは背負い、子どもには浮き袋を付けさせて、安全を確認しましょう。



⑥ 足元に注意を

水面下には、マンホールや側溝などの危険な場所が。長い棒をつえ代わりして確認しながら歩きましょう。



⑦ 深さに注意

歩行可能な水深は約50cm。水の流れが速い場合は20cm程度でも危険です。



⑧ 避難所では気象情報に注意を

避難場所では相互に協力を。被害の状況や今後の気象状況を確認しましょう。



避難の心得 10か条 ひこぼしとあかるきひ(なん)

- ひ** 火元確認! ガスの元栓・電気のブレーカー
- こ** 子どもや高齢者の手を握って避難
- ぼ** 防災カードを身に着ける
- し** 集合場所へは近所の人たちと集団で
- と** 徒歩で避難だ! 車は厳禁!
- あ** 頭を保護するヘルメットに防災ずきん
- か** 家族には連絡メモの活用を
- る** ルート設定! 危険な道や塀のそば、川べりなどは必ず避ける
- き** 極力荷物は最小限に
- ひ** 避難は指定された避難場所へ